

研究紀要

【学校教育目標を踏まえて】

- 夢や目標を持ち、豊かに学ぶ態度や意欲が重要である。
- 他者を理解し、自分の考えを伝えていくために、国語科の力を身に付けることが必要である。

【研究主題】

豊かに学ぶ児童の育成

～言語活動を効果的に設定し、身に付けさせたい力を確かなものにする
国語科の授業づくりを通して～

【研究仮説】

- 国語科の「読むこと」の領域において、言語活動を効果的に設定し、学びの交流やふり返りの活動を工夫することによって、身に付けさせたい力を確かなものにできるであろう。

【平成26年度までの研究を踏まえて】

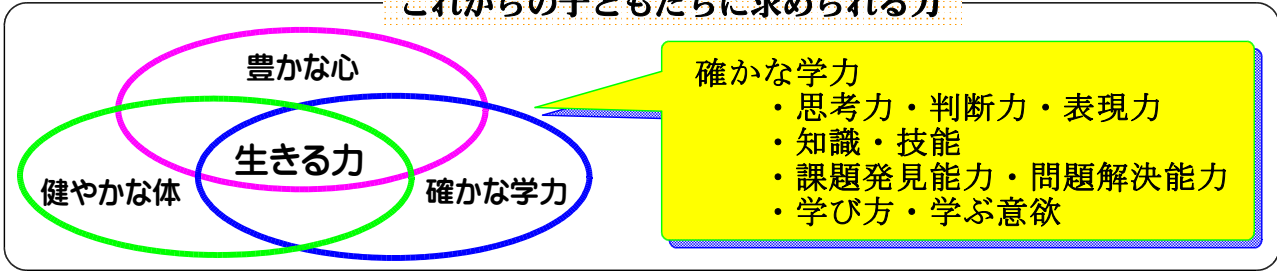
- ④ポイントを使ったふり返りを重視しながら、確かな力へと導く学習過程が確立している。
- 学習の流れや学習規律が、教師も子どもたちも身に付いてきている。
- 単元の重点指導事項と設定する言語活動が連動するように研究を深める。
- 2次の言語活動を組み入れた授業の流し方の研究を深める。

【児童の実態を踏まえて】

- 平成24～26年度は、長崎県学力調査、全国学力・学習状況調査においては、正答率が高くなってきた。平成27年度は、B問題（活用問題）が少し下がった。
- 全学年が実施した学力検査CRTでは、「読むこと」の領域が安定しておらず、学年による差が見られる。

研究全体構想

これからの子どもたちに求められる力



学校教育目標及び目指す児童像
志（こころざし）を持ち、学力と人間力を育む児童の育成

- 夢や目標を持ち たくましい子ども
- よく学び ねばり強く考える子ども
- 心をみがき やさしい子ども

【 志 】
【 学力 】
【 人間力 】

研究主題
豊かに学ぶ児童の育成
～言語活動を効果的に設定し、身に付けさせたい力を確かなものにする
国語科の授業づくりを通して～

研究仮説

○ 国語科の「読むこと」の領域において、言語活動を効果的に設定し、学びの交流やふり返りの活動を工夫することによって、身に付けさせたい力を確かなものにできるであろう。

① 「ねりあげる」過程で、課題を解決するために、発問や板書、資料提示などの工夫をしたり、互いの考えを比較・評価させたりすることにより、考えを深めることができるであろう。

② 「ふりかえる」過程で、**志**ポイントを生かし、単元を貫く言語活動のふり返りを仕組むことにより、言語活動が充実し、本単元で身に付けさせたい力を確かなものにできるであろう。

研究内容Ⅰ

国語科の授業改善

- ①言語活動を効果的に設定した国語科の授業づくり
- ②各学習過程での活動の工夫・充実
- ③県教委・市教委の指導主事を招聘しての研修

研究内容Ⅱ

特色ある日課による取組

- ①ひびきタイム（音読タイム）の実施
- ②はなまるタイム（活用問題スキルタイム）の実施
- ③児童朝会での群読
- ④学級会・代表委員会での話し合い活動の工夫
- ⑤読書タイムの実施

研究内容Ⅲ

家庭との連携強化

- ①生活習慣の改善と学習習慣の定着に向けた家庭との協力体制づくり
- ②学級PTAでの協議と充実度アンケートの実施

国語科学習指導案（骨子）の作成要領

単元の目標及び指導計画（全 ○時間）

単元の目標	
事前	○ 単元の学習につながる活動をする。 （前単元の想起や教師の仕掛け）
つかむ（○時間）	<p>○ 学習のねらいを明確にし、言語活動について理解させる。</p> <p>・ 既習の学習や経験の想起、ふり返りをする。</p> <p>・ 様々なテキストに出会う。</p> <p>・ 「単元を貫く言語活動」（例：リーフレットをつくろう等）を知り、概要を理解して学習計画を立てる。</p> <p>・ 学びの意欲を持ち、学習過程を見通す。</p> <p>1 【 】①</p> <p>2 【 】①</p> <p>3 【 】①②</p>
ふかめる・まとめる（○時間）	<p>○ 学習計画に沿って、言語活動を展開する。</p> <p>☆ 目的や読みの視点を意識して自分の考えを深める。</p> <p>☆ 交流する。（目的や方法を明確にする、根拠のある提示）</p> <p>4 * 指導のねらいは何か、そのためにどのような指導の手順をとり、どこで何を教え、どこでどの既習事項を活用させるのかなどを計画する。 【 】②</p> <p>5 【 】①</p> <p>6 【 】①②</p> <p>7 * 設定した言語活動をもとに、身に付けるべき力をより具体的に捉え、それを指導過程全体を通して指導するように計画する。 【 】①②</p> <p>8 【 】②</p>
いかす（○時間）	<p>○ 単元のねらいに沿った言語活動を展開する。 （☆の活動が関連図書で行われる。）</p> <p>○ 自分の学びを確かなものにする。</p> <p>○ 自分の学びを評価する。（「つかむ」の自分と「いかす」の自分を比べる。）</p> <p>9 【 】①</p> <p>10 【 】②</p>
事後	○ 各教科等の学習やこれからの読書生活に生かそう。

単元を貫く言語活動・・・志 目的意識・相手意識が分かるようにする。

学習のめあて

主な言語活動

【 評価規準 】

本時の展開

過程	学 習 活 動	教師の支援と指導上の留意点
つかむ ○分	1 本時の課題をつかむ。 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文カードや写真・さし絵等、本時の課題把握に必要な資料を提示し、課題意識を持たせる。 *事前に設定した課題でも、課題追究意欲を高めるための手立てを講じる。 ○ 課題を一斉に読ませ、ノート（ワークシート）に書かせる。
し ら べ る ○分	2 課題の見通しを立てる。 3 学習範囲を音読する。 4 一人調べをする。 ・発表の準備をする。 児童のつまづきを含めた予想される反応とそれに対する手立てを示す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み取りにおいては、単元を通して方法や手順が共通することが多いため、カード等を用意しておく。（短時間での確に確認する。） ○ 課題や見通しを意識させて行わせる。 ○ 机間指導により、各児童の学習状況や考えを把握し、個に応じた支援を行う。
ね り あ げ る ○分	5 調べたことを発表し、相互に検討する。 ミニねり (少人数学習) (グループ学習) 6 本時の課題を解決し、まとめる。 まとめ ①ポイント 本時で身に付けさせた力（子どもが本時に身に付けた力を確認する。）	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめに至るまでの具体的な展開を想像しておく。 ○ 好きな場面を味わっていくときには、同じ場面の人と意見交流する。 〈ねりあげの手順〉 <ul style="list-style-type: none"> ・指名の仕方 ・切り込み発問、揺さぶり発問など ・読み取りを深める手立て 〈評価①〉（発言） ※まとめるときの手順 <ul style="list-style-type: none"> ○ 検討結果を基に、まず児童に自分なりの「まとめ」を書かせる。 ○ 発表させ、児童の言葉を基にまとめる。 *本時の目標と整合したまとめとなるようにする。
ふ り か え る ○分	7 ①ポイントを生かしたふり返しを行う。 8 本時の学習をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ①ポイントを生かした言語活動を仕組むことで、本時の学習の習熟を図る。 ○ 単元を貫く言語活動と関連付ける。 *ふり返りの視点 〈評価②〉（記述） ○ 本時の課題及び学習計画に沿ったふり返しで自己評価をさせる。（学び方の定着を図る。）

研究内容Ⅰ

- ①言語活動を効果的に設定した国語科の授業づくり
 - ・年間を見通した言語活動計画
 - ・単元を貫く最適な言語活動の位置付け
 - ・身に付けさせたい力の明確化と手立て
 - ・身に付けさせたい力を示した志ポイントの押さえ
- ②各学習過程での活動の工夫・充実
 - ・「ねりあげる」過程での話し合い活動の充実
 - ・「ふりかえる」過程での単元を貫く言語活動のふり返り



- ③県教委・市教委の指導主事を招聘しての研修

志

研究内容Ⅱ

- ①ひびきタイム（15分間）の実施
 - ・毎週水曜日に実施
 - ・全校音読指導（学年ごとの音読資料による指導）（全校群読の練習）
- ②はなまるタイム（15分間）の実施
 - ・毎週月・木曜日に活用問題を実施
- ③児童朝会での群読
 - ・全校群読に挑戦
- ④学級会・代表委員会での話し合い活動の工夫
- ⑤読書タイムの実施
 - ・「読書タイム」で本に親しむ時間の確保
 - ・学級文庫の工夫（学年推薦図書を紹介と貸出し）
 - ・図書ボランティアによる読み聞かせ



- ③児童朝会での群読
 - ・全校群読に挑戦



- ④学級会・代表委員会での話し合い活動の工夫
- ⑤読書タイムの実施
 - ・「読書タイム」で本に親しむ時間の確保
 - ・学級文庫の工夫（学年推薦図書を紹介と貸出し）
 - ・図書ボランティアによる読み聞かせ



研究内容Ⅲ

- ①生活習慣の改善と学習習慣の定着に向けた家庭との協力体制づくり
 - ・家庭学習リーフレットの配付
 - ・PTA総会や学校・学級便りでの呼びかけ
- ②学級PTAでの協議と充実度アンケートの実施
 - ・学級PTAでのふり返りと改善サイクルの構築

志原っ子の家庭学習（低学年） 30～45分間

本学級では、生活習慣や学習習慣の育成を図るため、以下のポイントを設定しています。

○家庭学習の目標

○家庭学習の時間

○家庭学習の場所

○家庭学習の道具

○家庭学習の記録

志原っ子の家庭学習

○家庭学習の目標

○家庭学習の時間

○家庭学習の場所

○家庭学習の道具

○家庭学習の記録

しわらこ 志原っ子の家庭学習

しわらこ 志原っ子の家庭学習

しわらこ 志原っ子の家庭学習

しわらこ 志原っ子の家庭学習

国語科教育研究発表会(平成27年10月23日開催)のまとめ

長崎県教育委員会からの指導助言

* 内外教育2013年より、「教師の言語活動は充実しているか？」

発問・指示・説明・・・話す活動
子どもの意見を聞く・・・聞く活動
板書・・・・・・・・・・書く活動
読んで聞かせる・・・・・・・・読む活動

子どもたちへの第1の模範である。
だから、教師が豊かな言語活動を固持していかなければならない。
何の例も模範もなしに、「話す・聞く・書く・読む」活動は困難である。

《言語活動について》

* 活動例は例なので、実態に応じて独自に置き換えてほしい。

* 単元を貫く言語活動とは、国語科の学習指導における効果的な1つの手法であり、全てではない。他の言葉に言い換えると、子どもたちの活動目標である。

〈設定するときに気を付けること〉

- ・教師用指導書をできるだけ見ない。言語活動に照らした教材分析は教師自身が行う。教師の教材の読みに引き込むのではなく、児童自身が視点を持って活動することが大切である。
- ・年間に1つ又は、学期に1つ大きな単元を作る。教材分析の力、単元を構想する力が付く。
- ・「教師が1時間説明する。」「1時間はドリルをする。」があってもよい。様々な手法を工夫して指導力を身に付ける。

※ 教職員同士の研鑽(研究協議)→学力向上に有効である。

※ 先輩方に学び、日々の教育実践の中で身に付けた指導力を大切にしてほしい。

※ 毎日子どもたちは、学校へ通ってきている。そこに教師が立って指導する。長い年月変わらず、そうしてきた。それしか、子どもの学力の向上はない。だから、持てる指導力を存分に発揮してほしい。

※ 身に付けたことを生かして、生涯学び続けることが大切である。義務教育9年間で身に付けなければならない事項がある。全てのベースになるのが、国語である。どんな単元学習を仕組みればよいのかをしっかりと考えていく。

※ 子どもたちは、誉められたい、学びたい。誉めることが将来に生きて働く。

成果

- ◎ 「読むこと」の目標に沿った効果的な言語活動を仕組むことができた。
- ◎ 児童が意欲的になる教師の手立てが多くとられた。
(並び替え、2択の課題、付箋紙活用、家庭学習による一人調べ)

課題

- 振り返る時間を10分～15分確保するためにも、内容を絞る必要がある。
- 子ども同士のねり合いが深まるようにする。
- 「読むこと」の目標に沿った課題作りと手立ての工夫の研究が必要である。